

共立女子第二中学校

2023年度

入学試験問題（2回PM）

【 国 語 】

試験時間 50 分

【 注 意 】

- 1 試験開始の合図があるまで、中を見てはいけません。
- 2 問題は一～三で、全部で11ページです。試験中によごれや不足しているページに気づいた場合は、手をあげて監督かんとくの先生を呼んでください。
- 3 解答はすべて解答用紙にはっきりと記入し、解答用紙だけを提出してください。

一、次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(本文には一部改めたところがあります)

① 形が悪い、色合いがよくない、傷がついているなど、見た目が悪いために捨てられる食品があります。「見た目」にも、市場に出すための基準があるのです。加工食品だけでなく、②のなかで育つ農産物や海でとれる魚介類、酪農家や養豚家などが育てる家畜にもそのような基準がついて回ります。サイズの大小、いびつな形、傷などは、②にできたものなのでしかたがないと思うのですが、私たちの社会はそれを許しません。たとえばまがったキュウリがあるとしみましょう。見た目が悪いといって買い手がつかない、大きさや重さが不揃いだと値段をつけにくい、袋に入れにくいしかさばるから流通の際に傷がつきやすいなどという理由で、流通過程で「規格外」として処分されます。いっぽう規格を満たす作物を出荷すれば、市場に流通する作物の品質は保たれ、消費者の購買意欲も増し、結果、お店にも利益が入ると、一見するといいいことづくめのようにも思えます。その陰で、多くの食品ロスが生まれていることをのぞけば、です。

そうした現状を変えようとする取り組みが、今、行われつつあります。④規格外の野菜や果物を活用する取り組みです。

あるケーキ屋さんでは、台風などで外側に傷がついた果物を買取り、新しく商品化して販売しています。たとえば、商品として出荷できなくなった桃でかき氷を作ったり、同じように市場に出せないイチジクでタルトを作ったりしています。そうして販売をしたところ、いずれも評判になり、そして大好評の商品となりました。少し値段は高めですが、規格外が発生した時だけの期間限定であることや、これまで食べたことのないような味(エダマメのかき氷!)もあり、そのサプライズ感が大人気となったのです。

果実は大きく育てるために一部の実を小さいうちに摘み取り(摘果といいますが)、その多くは捨てられてきました。しかしこの摘果果実は、確実にかつ安定して手に入ります。それに目を付けたこのケーキ屋さん、定番の商品に利用するようにもしました。

農家は大雨や日照不足にそなえて、多めに種や苗を植えることがあります。結果、すべての作物が順調に育つと農産物が穫れすぎでしまいます。⑤そのため出荷をやめる農家もあります。すると農産物は収穫されずに、トラクターなどでそのまま畑にすき込

んで土にかえず「産地廃棄」がなされます。

⑥ このような農産物の廃棄問題を一朝一夕に解決するのは難しいといわれています。A、規格外農産物の廃棄や産地廃棄は、もともと農家の所得を維持するために始まっているからです。高い値段で農産物が売れないと日本の農業の衰退に直結します。

B、たんに食品ロスを減らすだけでなく、規格外の農産物であっても、また産地廃棄をしなくても利益が十分出るように工夫しなければなりません。一つの考え方ですが、規格を維持して「規格外農産物」として安売りするのではなく、規格を緩くして安くしすぎないで売る「規格緩和」ができれば、作る人にとってもモチベーションを維持することができるかもしれません。規格緩和されて出荷数が増えた分の過剰な作付けをやめれば、作業負担は軽くなり、産地廃棄を減らすこともできると思います。また、利益もそれなりに出せるはずです。

そして余った土地で、時期をずらして収穫できる農産物を作るようにすれば、利益も出やすくなりますし、リスクも回避できます。

C 消費者もいろんな種類の農産物を楽しめるようになります。国の調査によれば、規格外等の農水産物を購入したことがあると回答した人は約八割に上ります（消費者庁「物価モニター調査」二〇二〇年）。一方、購入しなかった人に理由を聞くと「買えるところがないから」の回答が大半を占めました。「消費者はまがったキュウリを買わない」というより、生産者や業者の人たちが「まがったキュウリを売る工夫や努力をしてこなかった」という面もあったのかもしれない。

〔小林富雄『食品ロスはなぜ減らないの?』による〕

問一 ① 「形がく捨てられる食品」とありますが、このような食品のことを筆者は何と呼んでいますか。本文中より五字以内でぬき出しなさい。

問二 ② にあてはまる語として最も適するものを選び、記号で答えなさい。

ア 未加工 イ 自由 ウ 天然 エ 自然

問三 ③ 「それを許しません」とありますが、その結果どのような影響が出ていますか。本文中より十四字でぬき出しなさい。

問四 ④ 「規格外の野菜や果物を活用する取り組み」について本文中では複数の例が挙げられています。そのうちの一つを本文中の語句を使って、十五字以内で説明しなさい。

問五 ⑤にあてはまる一文として最も適するものを選び、記号で答えなさい。

ア 農産物が必要以上に穫れると市場に出す分以外は近所の家庭にシェアし、物々交換ぶつぶつこうかんが始まるので「豊作交流」という地域の活動が始まります。

イ 農産物が必要以上に穫れると収穫にかける労力が増え、出荷に向けた作業にいつも以上に時間がかかってしまう「豊作遅延ほうさくちえん」が起きます。

ウ 農産物が必要以上に市場に出荷されると価格が下がり、輸送代すら出ないほど低価格になり、作っただけ損をする「豊作貧乏ほうさくびんぼう」といわれる状態おちいに陥ります。

エ 農産物が必要以上に市場に出荷されると価格が下がり、消費者の購買意欲が高まることで、農家の収入が増えて「豊作万歳ほうさくばんざい」といわれる状況じょうきょうになります。

問六 ⑥「このような農産物の『いわれています』について、筆者の考える解決策は何ですか。本文中より一語でぬき出しなさい。

問七 A Cにあてはまる語として最も適するものをそれぞれ選び、記号で答えなさい。(記号は一度しか使えません)

ア さらに イ そのため ウ なぜなら

問八 ⑦「まがったキュウリを売る工夫や努力をしてこなかった」とありますが、筆者はどのような方法をとれば「まがったキュウリ」が売れると考えていますか。「国の調査」の内容をふまえて説明しなさい。

問九 本文の内容としてあてはまらないものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 消費者のうち規格外の商品を買った経験がある人が過半数を占めている。

イ 消費者は豊作であればあるほど低価格で農産物を購入することができる。

ウ 生産者は消費者に買ってもらいやすくなるように規格を設けている。

エ 生産者は商品価値が下がらないようにするために規格外の作物を処分する。

二、次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(本文には一部改めたところがあります)

それは、もう二十年以上も前、娘の緑さんが中学二年生の冬のことだった。

緑さんが五歳のときに離婚し、働きながら、ひとりですべてをやってきた園子さん。勤めていた建設会社の事務の仕事はいそがしく、思春期まったただ中の娘のことが気になりつつも、ここしばらくはすれちがいの日々が続いていた。そのせいか、最近話しかけても「うん」とか「まあ」とかしか返ってこない。秋の終わりにバスケットをやめてしまったこと。ときどき帰りがおそいこと。制服のスカートの丈が、どんどん短くなってきたこと。日々、波のように押しよせる仕事の合間に、フツとそんなことが頭をよぎりながらも、あふれかえった心の中の引き出しを、どう整理してよいものかわからずにいた。

(よし、今年は黒豆を煮よう)

年末の二十八日、無事に仕事納めが終わった帰り道で、なぜかそう思い立った園さんは、大粒の黒豆と1キログラムの砂糖を買った。

(鉄たまごは食器棚の引き出しにあっただはず。レシピ帳は、どこにしまったかしら)

もう何年も、黒豆なんて煮ていない。それでもしだいに頭の中がさえわたり、黒豆をツヤツヤに煮あげるまでの行程に、思いをめぐらせていく。冷たい風に逆らうようにして歩く園子さんの足は、しだいに力強さを増していった。

そして夕食後、黒豆の煮汁に使う砂糖の量をはかろうと、園子さんは棚の中から、料理用のはかりを取り出した。数年前に買ったデジタル式のはかりは、買ってすぐに、一、二度使ったきりだった。

なぜかそのとき、テーブルのフルーツかごの中のまっ赤なりんごに目がいった。

一番上のりんごを手にとって、園子さんは緑さんに声をかけた。

②「ねえ、このりんご、何グラムだと思う？」

ソファに寝転がりながらテレビを見ていた緑さんは、チラッとふりむいただけで、けだるそうに言った。

「はあ？ わかんない」

いつもなら、そこで会話はおしまいだ。

でも今夜はちがった。

「そう言わないで、考えてみてよ」

園子さんは、りんごと、買ってきた砂糖の袋をつかみ、緑さんの目の前にしゃがんだ。

「ヒントをあげる。こっちの砂糖が1キログラムなの」

(思いだして、緑。昔、なにかあるたびに、よくクイズにして遊んだじゃない)

園子さんは右手の砂糖と、左手のりんごを、大げさにゆらした。

「テレビ、見えないんですけど」

寝転んだままで、迷惑そうに眉間にシワをよせる緑さん。それでも園子さんは、引きさがらなかった。

「ほら、持って比べてみて」

小さくハアとため息をついた緑さんは、上体を起こし、③それを受けとった。

園子さんと同じしぐさで、砂糖とりんごをゆらしながら、④見えないものに目をこらす。

緑さんの表情は、少し真剣なものに変化した。無言のまま、何度もかわるがわる、左右の手をゆらす。もともと、負けずぎらいなのだ。そして、緑さんはこたえた。

「212グラム」

(だめね、それじゃあ軽すぎるわ)

実は園子さん、りんごの重さがだいたいどれくらいか、知っていた。数年前にはかりを買ったとき、一番最初にはかってみたのがりんごだった。だからなんとなく、そのときの重さを覚えていた。

「わたしは、320グラム」

(たしか、300グラムはあったはず)

「じゃあ、はかるわよ」

はかりを持ってきてスイッチを入れると、園子さんはうやうやしく、りんごをその上にのせた。デジタルの黒い棒が⑤と、ついたり消えたりして数秒後、三つの数字が画面にならんだ。

「えーっ！」

園子さんは大声を出した。

212

「こんなことって、ある？」

見ると緑さんも、⑥と口を開け、あっけにとられたような顔をしていた。

「絶対300グラムはあると思ったのに」

⑦ズルをして記憶きおくにたよった自分を反省し、園子さんはため息をついた。

「緑って、やっぱりカンがするどい。ほら、昔、節分の日によくやった、落花生の当てっこ。緑、ほとんど命中してたもんね」

それは、一個の落花生を左右どちらかの手ににぎり、どっちに入っているのかを当てさせる遊びだった。「どっちだ？」って両手を出すと、緑さんはいつも、目を輝かがやかせてこの遊びに夢中になった。

「ちがう」

こたえる緑さんの声が、少し熱を帯びていた。

「節分の豆の当てっこは、完全にカンだけど、このりんごはそうじゃない」

さっきまでぼんやりしていた目が、確実になにかを見つめていた。

「ヒントがあったから。ヒントって言われて、ちゃんと1キロの砂糖と比べたから」

そしてまた、たしかめるように砂糖とりんごを両手でゆらす。

「で、思ったの。砂糖の半分の半分くらいかなって。あとはまあ、カンなんだけどね」

クスツと笑った緑さんは「ママからヒントをもらったのは久しぶりだ」とつぶやいた。

「あ、あら、そう？」

面と向かってママと呼ばれたのだった。久しぶりだと、園子さんは⑧胸のすみを熱くした。

「あーあ。もう番組、終わっちゃったじゃん」

思いだしたようにテレビの画面をふり返った緑さんは、大きさにクシヤツと顔をゆがめると、急に大きな口を開けてりんごにかじりついた。

「あ。洗ってないわよ……」

かまわずカプツとひと口かじると、なにを思ったか、緑さんはかじったりんごをはかりにのせた。

「204グラム。ってことは、わたしのひと口って、8グラムしかない」

ケタケタと笑う。

園子さんもまた、⑨だった。

「よーし」

はかりの上のりんごを取り、園子さんも思いっきり大きく口を開けてかじりついた。

カポッ

りんごの重さは189グラムに変化した。

「えっと、204ひく189だから……」

「15」

「やった、ママの勝ち！」

もちろん、負けずぎらいな両者はこれでは終わらない。カプツ、カポツとかわるがわるにかじりつき、五分もたたないうちに、りんごはやせ細って芯しんだけになった。

「ママがりんごにかじりつく顔したら、迫力はぶりよくあったわあ。写真撮とったときやよかった」

「ふん、それはおたがいきまじやない」

ふたりとも、そう言いって笑わらいあいった。

「さて、黒豆を煮るか」

⑩ 本来の目的を思いだして立ちあがると、緑さんも砂糖の袋を持って立ちあがった。

「砂糖は何グラム？ わたし、はかってあげる」

ならんで流しに立ったふたり。緑さんの背が、とうに自分を追おい越こしてしまっていることに、園子さんはまだ気がついていない。

「バスケットのことなんだけどさ……」

黒豆をジャラジャラと洗う園子さんのとなりで、緑さんはぽつりぽつりと話わした。部活をやめてしまったわけ。友だちとのいざこざ。そして進学する高校について、悩なやんでいるのだということ。

「あのさ」

ひととおり話わし終おわると、緑さんは少しはさしそうにこう言いった。

「必要になつたら言いうから。そのときはママ、とりあえず ⑪ ちようだい」

⑫ 少しすぎるようなその目に、園子さんは鼻おの奥おくをツーンとさせながら、「りようかい！」と声をはりあげた。

ピーツ

オーブンの電子音で、園子さんはハッと現実に引きもどされた。取りだしたアップルパイは、こんがりきれいな色に焼けていた。「つい昔のことばかり思いいだしちゃう。店がひまだだっていうのも、こまったもんだわね」

だれもない厨房ちゆうぼうで、園子さんはため息まじりに、ひとりさびしく笑わらった。

〔蓼内明子『ブレーメン通りのふたご』による〕

問一 ① 「なぜかそう思い立った」とありますが、その理由としてあてはまらないものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 時間に追われて色々なことが片付かない今だからこそ、一つのことにじっくりと時間をかけたい気持ちがあったから。

イ 娘が小さいころ作っていた料理だからこそ、心が通わなくなった今また作ることでも会話のきっかけにしたかったから。

ウ 健康な生活を願うという意味のある黒豆だからこそ、何日間も家に帰ってこない娘に食べさせなくてはと思ったから。

エ 忙しい一年だったからこそ、何年も煮ていない黒豆を作ることでも新しい年は良い年になるようお願いをこめたかったから。

問二 ② 「ねえ、このりんご、何グラムだと思う？」とありますが、この時の園子さんの気持ちとして最も適するものを選び、記号で答えなさい。

ア 娘と話し合おうと決めたが切り出し方に悩み、つい目に入ったことを言ってしまう慌てている。

イ 疲れているなか料理をしようとしているのに、寝転んでいるだけの娘に手伝うよう注意したい。

ウ 全てのことにやる気を失った娘に、何かを考えることでやる気を取り戻してほしいと伝えたい。

エ 小さいころに二人でやっていた遊びをきっかけにして、娘と向き合う機会を作ろうとしている。

問三 ③・⑤・⑥・⑧にあてはまる語として最も適するものをそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア ポカン イ ピコピコ ウ しぶしぶ エ ほわっと

問四 ④ 「見えないもの」とは何ですか。本文中の語句を使って十五字以内で説明しなさい。

問五 ⑦ 「ズル」とありますが、具体的にはどのようなことですか。最も適するものを選び、記号で答えなさい。

ア 手元にあるりんごの重さを緑さんに話しかける直前にはかかっていたこと。

イ 以前にりんごの重さをはかったことがあるので、大体の予想がつくこと。

ウ 何度もりんごパイをつくっているので材料をはからなくてもわかること。

エ はかり自体を調節しているので、必ず自分の予想通りとなっていること。

問六 ⑨ にあてはまる語を本文中より六字でぬき出しなさい。

問七 ⑩ 「本来の目的」とは何ですか。本文中の語句を使って説明しなさい。

問八 ⑪ にあてはまる語を本文中より三字でぬき出しなさい。

問九 ⑫ 「園子さんは鼻の奥をツーンとさせながら」とありますが、これはどのような気持ちですか。最も適するものを選び、記号で答えなさい。

ア 母親への相談はしないと決めていたわけではなく、緑さんが自分で解決しようとしていたのだと知り、娘の成長を感じている。

イ 母親の力を一切求めず、友だちや学校の先生などに相談して自分の悩みを解決しようとする娘の姿から頼もしさを感じている。

ウ 園子さん自身も、中学生の頃に同じような悩みを抱えていたことを思い出し、懐かしさとともに娘を応援しようと思っている。

エ 園子さん自身は、中学生のころも家族に何でも相談していたので、意地を張っている娘の態度を理解できないと悲しんでいる。

問十 本文では園子さんの二十年以上前の思い出が語られていますが、その思い出の内容はどこまでですか。本文中より終わりの五字をぬき出しなさい。

《問題は次のページに続きます》

三、次の問いに答えなさい。

問一 次の①～④の文の 部分がかかっていくところを、各文の——線部から一つずつ選び、記号で答えなさい。

① **突然** とつぜん **大きな** イ **雷** ウ が **ゴロゴロ** エ と **鳴** エ った。

② **あれは** ア **私が** イ **二年前** ウ に **作** エ った **作品** エ です。

③ **もし** ア **中学生** イ に **な** ウ ったら **委員会** エ に **入** エ りたい。

④ **君** ア が **リーダー** イ に **ふ** ウ さわしいと **私** エ は **思** エ う。

問二 次の①～④の慣用句の にあてはまる「体の部分を表す漢字」一字をそれぞれ答えなさい。

① を皿にする ② にたこができる ③ に泥 どろ をぬる ④ が焼ける

問三 次の①～④の熟語が対義語の関係になるように、 にあてはまる漢字一字をそれぞれ答えなさい。

① 重視 $\uparrow\downarrow$ 視 ② 肯定 こうてい $\uparrow\downarrow$ 定 ③ 需要 じゅよう $\uparrow\downarrow$ 給 ④ 自然 $\uparrow\downarrow$ 人

問四 次の①～④の文の——線部の漢字をひらがなに直しなさい。

① 仏の顔も三度まで。 ② 全く心配ない。 ③ 友人の留守の間を任された。 ④ 初めに結論を述べる。

問五 次の①～④の文の——線部のカタカナを漢字に直しなさい。必要ならば、送りがなをひらがなで書きなさい。

① **ダイトウリョウ** の来訪が近づく。 ② **テキ** との距離 きょり をつめる。 ③ 作品を **テンジ** する。 ④ 手紙を **トドケル**。